

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>[1学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みが意欲的で、積極的に発言できる。 ・提示したテーマに沿った振り返りや感想を書くことができる。 ・書く力が不十分で、個人差が大きい。特に、「自分の考え」を書くことに課題がみられる。 <p>[2学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを他に伝える力が十分とはいえない。 ・相手の話をうまく聞きとる力が少ない。 ・常用漢字の定着が十分にできていない生徒がいる。 <p>[3学年]</p> <p>漢字の定着が十分でない生徒が多い。家庭学習の習慣が定着していない生徒もいる。「読む」ことに課題がある。概ね、各学級とも落ち着いて授業に取り組むことができている。</p>	<p>[1学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く時間内にも発言の機会を設け、考えるきっかけを与える。 ・漢字テストや振り返りテストを定期的に行うとともに、感想や作文等でも積極的に漢字を使うよう指導していく。 <p>[2学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い学習の実践。 ・漢字の補習や繰り返し学習の継続。 <p>[3学年]</p> <p>学習意欲を高められるように工夫して、線を引く、他の考えを参考にして、読み取りを考えさせる。昨年度と同じく、家庭学習の習慣を定着させる必要がある。</p>	<p>[1学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを短い文で書く活動を頻繁に行う。 ・漢字の学習に振り返りのテストを設ける。 ・作文、感想の添削時に漢字の使用に関する視点も入れる。 <p>[2学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝える力を高めるために、定期的話し合い学習を行う。また、メモのとりかたや話の聞き方のスキルを授業の中で実践していく。 ・放課後や朝の時間を活用して、補習や繰り返し学習を促すことが必要だと考えられる。 <p>[3学年]</p> <p>補充的な学習課題や具体的な学習シートを示す。それにより、学習への興味・関心を引き出す。読み取りをまとめる作業と時間を確保する。まとめたことを小集団で発表するなど、一人一が表現できる場を確保する。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の変容(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>[1学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートや定期試験の「書く」部分の達成度をみる。 ・漢字テストと振り返りテストによって定着度をみる。 <p>[2学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子や、学習シート・ノートなどから達成度の度合いを図る。 ・漢字の補習プリント、再テストの達成状況から成果を見取る。 <p>[3学年]</p> <p>基礎的・基本的内容の知識の定着は、中間テストや期末テストなどの結果から成果を見取る。読み取りについては、定期テストの結果だけでなく、授業で設定した学習課題への取り組みからも見取</p>	<p>[1学年]</p> <p>[2学年]</p> <p>[3学年]</p>	<p>[1学年]</p> <p>[2学年]</p> <p>[3学年]</p>
<p>次年度への指針</p>		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1学年：授業規律はできている。小グループでの課題解決学習に意欲的に取り組んでいる。家庭学習の程度によって知識理解の定着の度合いに差がみられる。</p> <p>2学年：社会科(特に地理的分野)についての興味・関心がとても高く、授業中に発言も活発である。歴史的分野でも小学校でも重要な人物を中心に、学習の積み重ねができていく。しかし、家庭学習が習慣化できている生徒と、できていない生徒の間が大きく、定期考査でもその差が反映されている。</p> <p>3学年：漢字の読解が未定着な生徒が多いために、教科書(歴史・公民)の漢字が読めない。また、家庭学習の習慣が定着していない生徒もいる。複数の資料を比較し、読み取れることを表現することに課題がある。各学級とも落ち着いて授業に取り組むことができているが、自らの考えを述べることについては学級によって差がある。</p>	<p>1学年：家庭学習の定着が課題とされる。</p> <p>2学年：「なぜ、歴史を学習するのか。」「社会科は将来どんな役に立つのか。」という目的意識を持たせるとともに、「社会科を学ぶことが楽しい。」や「もっと社会科について知りたい。」と生徒の興味・関心が高められるような授業を展開する。また、どの分野についても、社会的事象について思考・判断・表現力を高められるような課題を設定する。</p> <p>3学年：学習意欲を高められるよう興味・関心を引き出す工夫をする。歴史的事象・公民的事象に関して、考え判断し、考えたこと・判断したことをまとめられるようにする。また、まとめたことを発表し合いやすいような多様な学習形態を設定する。さらに、2学年時と同様、家庭学習の習慣を定着させる必要がある。</p>	<p>1学年：家庭学習の動機付けとなる授業展開を進める。</p> <p>2学年：視覚資料の提示や、生徒の生活に関わるような身近な話題を提示することで生徒の社会科に関する興味・関心を高める。また、歴史的・地理的分野については、その当時の人々やその場所に暮らす人々の気持ちになって、社会的事象を考えさせることによって、生徒の思考・判断・表現力の向上を図り、その過程を積極的に評価する。</p> <p>3学年：生徒の生活に関わる学習課題を示すことで、学習への興味・関心を引き出す。また、複数の資料を比較し、読み取れることをまとめる作業と時間を確保する。まとめたことを小集団で発表するなど、一人一が表現できる場を確保する。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>1、2、3学年とも：社会的事象への興味関心、基礎的・基本的内容の知識の定着については中間テストや期末テストの結果から成果を見取る。社会的事象に関する技能、思考・判断・表現については定期テストの結果に加え、授業で設定した学習課題への取り組みからも見取る。</p>		
次年度への指針		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1年：理解の定着の差は大きい。理解の遅れている生徒の基礎基本の欠落もさることながら、難問を解くことのできる生徒が少ないことも課題である。3年生になり、少しずつ意欲はもち始めている。ただし、宿題等の提出率をみると家庭学習の定着はまだ感じることができない状態である。</p> <p>2年：授業態度はおおむね良好であるが、既習事項の定着に差があり、数学に対して苦手意識をもっている生徒も多い。また、家庭学習が定着していない生徒が目立つ。</p> <p>3年：基礎的な内容の定着の差が大きい。授業には意欲をもって臨んでいる生徒が多いが、家庭学習の定着していない生徒が目立つ。</p>	<p>1年：2学級3展開の少人数により、生徒の知識理解に合わせた課題を与えていく。意欲喚起をさせ、見方考え方の育成に取り組んでいく。テスト前の補習を計画的に進め成果が出せるようにする。</p> <p>2年：3段階の習熟度別の授業の授業を実施しているので、それぞれの単元の目標を明確にし、しっかりとした数学的な力を身につけさせる。また、授業以外にも反復練習により基礎基本の定着をさせる場を設ける。</p> <p>3年：3段階の習熟度別の授業の授業を実施しているので、それぞれの単元の目標を明確にし、しっかりとした数学的な力を身につけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や前年度の学習内容など確認することで、その知識を生かせるように振り返りを重視した授業実践をする。 ・少人数指導により、習得の遅い生徒には基礎基本の反復練習をさせる。また習得の早い生徒には自分の考えを発表させるなど言語活動の機会を増やす。 ・宿題をこまめに出し、チェックをする。 ・スモールステップで取り組めるような発問と課題の与え方について意見交換をする。 ・テスト前や長期休業中に補充学習を実施する。 ・教科部会で、今後の少人数授業のクラス編成などについて検討する。 ・授業中の発問や、発問のタイミングを工夫し、数学的な見方・考え方の育成を図る。また、具体的な量と関連させ、教具などを利用する。 ・基礎基本の定着の遅れている生徒は、学習に臨む基本的な姿勢から見直していく。
成果を見取るための方法	児童・生徒の変容(3月上旬現在)	教員の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加する様子や宿題の進行状況などを点検し数学に対する関心意欲を確認する。 ・定期テストや小テストなどで理解度を確認する。 ・学力向上を図るための調査結果から本校2年生の、全校学力調査の結果から本校3年生の、課題を見つけ、教科部会で改善策を検討する。 		
<p>次年度への指針</p>		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>[1学年] 小学校のときに理科が好きだった生徒が多く、観察には意欲的に取り組んでいる。科学的に思考することにも、取り組む姿勢が見られるが、あまり得意ではない。</p> <p>[2学年] 2学年：昨年の調査で多数の生徒が理科が好きで内容を理解していると答え、しっかり取り組むことができているが、基礎的な内容が定着しているとはいえない。また、数名であるが熱心に取り組む生徒もいる。</p> <p>[3学年] 昨年度の東京都の児童生徒の学力向上を図るための調査によれば、思考・表現と必要な情報を読み取る力の観点において、特に苦手が見られた。</p>	<p>[1学年] 様々な現象や実験結果について、科学的に思考する力を養う。</p> <p>[2学年] 2学年：全体が興味関心を持てるように、身近な事象と授業内容が結びつくようにしていくと共に、実験やレポートの個人や班で取り組むようにし、思考力や表現力をつけていく。</p> <p>[3学年] 思考・表現する力を育成するには、日頃より実験や観察後の考察を全体で行うと同時に、生徒個人でも行うことで繰り返しの学習を促すことが必要だと考えられる。</p>	<p>[1学年] 実験結果や現象について、個人で考えをまとめ、班で話し合いなどを行い、考えを深める活動を行う。</p> <p>[2学年] 2学年：マスメディアやソーシャルメディアの情報を活用し授業の内容に取り入れ興味を持てるように工夫する。実験・観察後のレポート作成では、個人で作成、班でまとめて発表という手順をとり、思考力、表現力、読み取る力を育成する。</p> <p>[3学年] 左記を踏まえて、実験・観察後のレポート作成を課題として生徒に課すことで、生徒の思考・表現する力の育成に努める。同時に、考察を行うことを通して、結果から必要な情報を読み取る力の育成にもつながると考える。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の変容(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>[1学年] 実験結果から考えたことを記録し、話し合い活動からわかったことを記録させる。</p> <p>[2学年] 2学年：毎回漸授業の簡単な復習を行う。実験や観察後には、実験プリントに必ず結果を基にした考察を文章で書かせて回収して評価する。また、小レポートを適時実施し評価を行う。</p> <p>[3学年] 1年間を通して、実験・観察レポートの考察に記載された内容の変容から成果を見取る。</p>	<p>[1学年]</p> <p>[2学年]</p> <p>[3学年]</p>	<p>[1学年]</p> <p>[2学年]</p> <p>[3学年]</p>
次年度への指針		
Empty space for next year's guidelines		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>【1学年】 学習規律については、4月当初のガイダンスと、毎時間の指導で確立しつつある。特に歌唱分野において、学級によって取り組みに差があり、意欲的な学級と、躊躇してなかなか声が出せない学級がある。3月の音楽会に向けて継続指導中である。語彙が乏しく、イメージしたり、自ら考えたりする活動を苦手としている。</p> <p>【2学年】 進級、クラス替えに伴い、どの学級も意欲的な取り組みが見受けられるようになった。歌唱においては、3月の音楽会を経験し、上級生を見習ってしっかり歌おうとする姿勢が見られる。語彙や経験が乏しいため、イメージしたり、自ら考えたりする活動を苦手とし、意欲も低下してしまう。</p> <p>【3学年】 歌唱分野においては、非常に意欲的に取り組んでいる。イメージしたり、考えさせる授業では、何とか自分の考えを言葉で表現しようと努力する姿勢が見られた。</p>	<p>【全学年共通】 楽曲を聴いて、情景をイメージしたり、歌詞や曲想から楽曲に込められた想いを感じ取り、表現に生かしたりする活動を、授業の中で積極的に取り入れる。</p>	<p>【全学年共通】 ワークシートの発問を工夫し、生徒の想像する力や表現する力を高められるような実践を、これまで同様に行う。</p> <p>歌唱試験に向けたワークシートを作成し、事前に、どのような楽曲で、どこに気をつけるか、といったポイントを整理させる。また、自己評価の際には、どのように歌うべきだったか、自分はどの部分に一番重点を置いて歌唱したかなどを振り返らせる。</p> <p>現在、強弱表現でさえもあいまいな生徒が多いため、自分の楽曲表現のポイントをしっかり整理させて表現に生かす、上記のような活動を授業の中に取り入れる。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>【全学年共通】</p> <p>①歌唱試験による表現の実技 ②歌唱試験の事前・事後ワークシートによる見取り</p>	<p>楽曲の雰囲気や、歌詞の意味を感じ取り、表現につなげようとする姿勢が見られた。</p>	<p>歌唱試験のワークシートと、鑑賞領域のワークシートの改善に取り組んだ。</p>
次年度への指針		
<p>全体的に、楽曲の雰囲気を感じ取ったり、歌詞の内容から表現方法を考えたりする生徒が増えた。今後は、少ない授業数の中で、どのようにその表現力を定着させるかと、他の楽曲にも生かせる指導をするかを研究していきたい。</p> <p>については、授業中の表現活動の中でのワークシートの活用や、考えをまとめる方法について、取り組んでいきたい。</p>		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に人物クロッキーやスケッチに取り組める。 ・課題に意欲的で、真面目に取り組む生徒が多い。 ・作業の際、支援を必要とする生徒がいる。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を見て感じたこと、気づいたことを伝え合い、班活動が活発にできる。 ・多くの生徒が課題に対して自分なりの主題をもち制作している。 ・作業が遅く、なかなか目標を達成できない生徒、無気力、ふざける生徒もいる。 <p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち帰り作業を進めてくる意欲的な生徒もいる。 ・鑑賞や制作に対し、落ち着いて取り組む生徒が多い。 ・作業や絵を描くことに苦手意識のある生徒もいる。 ・作業が遅く、なかなか目標を達成できない生徒、無気力な生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作業の流れ、参考作品の紹介、個人作業の確認を行い、授業への見通しと細かな指導を行う必要がある。 ●段階的に評価を生徒に返し、個々の課題を伝え、目標をもって制作するようにする。 ●作品鑑賞の習慣化により、鑑賞する力を養う。 ●作業に取り組まない生徒への補助指導、個別指導を行う。また、作業が早い生徒への基礎能力の向上と作業時間の調整ができる課題を用意する。 ●提出までの回数を板書や作業日誌を通じて、見通しをもち制作できるようにする。 ●班での作品鑑賞や人物クロッキー、制作カード・作業日誌により、生徒の自主性を高める。 	<p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機や写真をテレビモニターに映し、一斉に作業の確認や作品紹介から制作の見通しや自分、友達の良さを認める機会をもつ。 ・机間指導、呼び出し個別指導により作業の補充的指導を行う。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の説明を授業ごとに行い、提出物の段階的な評価を行う。 ・スモールステップで技法を身につけ、自信をもって作品を制作できるようにする。 ・授業規律に重点を置いて指導を行う。 <p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の説明を授業ごとに行い、提出物の段階的な評価を行う。 ・参考資料や参考作品を紹介し、自分の表現に生かせるようにする。 ・評価の説明を授業ごとに説明し、提出物の段階的な評価を行い、自分の作品を振り返る機会をつくる。
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに提出物状況、作品未完成者の状況の把握、作業状況の確認を行い、目標達成状況者が95%以上を目指す。 ・長期休業時に教材研究と題材の補助教材を揃え、2学期、3学期の生徒の様子や変容を見取る。 ・長期休業時に作品鑑賞プリントや教材を準備する、2学期、3学期の生徒の様子や変容を見取る。 		
次年度への指針		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1年生 ○授業態度は、ほとんどの人が真面目に受けることが出来ている。板書した内容を完璧に書くことの出来ない人が、2割程度いる。製図を描くことに関しては、差がある。</p> <p>2年生 ○授業態度は、真面目に取り組むことの出来る生徒と、注意力があまりない生徒の差が大きく見られる。板書した内容を完璧に書くことの出来ない人が、3割程度いる。授業を受けたことで、自分の考えをもつことは、多くの生徒が出来ている。</p> <p>3年生 ○授業態度は、ほぼ全ての生徒が真面目に取り組むことが出来ている。ノート提出もほぼ全ての生徒が完璧に書いた状態で提出出来ている。授業を受けたことで、自分の考えを持つこともほぼ全員が出来ている。</p>	<p>1年生 ○実際に木材を使ってものづくりを行うなど、経験をすることで、理解を深められるようにする。ノートを書く時間を充分に取る。</p> <p>2年生 ○実際に工具を使用してものづくりを行うなどの体験をすることで、理解を深められるようにする。ノートを書く時間を充分に取る。</p> <p>3年生 ○実際に部品を扱うことで、理解を深められるようにする。前時の内容を復習する時間を充分に取ることで、学習した内容を定着できるようにする。</p>	<p>1年生 ○ノート記録方法の指導を行う。各自の進度に合わせた指導を行う。</p> <p>2年生 ○ノートの記録方法の指導を行う。各自の進度に合わせた支援を行う。</p> <p>3年生 ○分かり易い例をあげて、授業を行う。授業の理解度を測るために作文を書いて提出させる。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>1年生 ○ノートと工程チェック表を確認する。</p> <p>2年生 ○ノートと工程チェック表を確認する。</p> <p>3年生 ○ノートと作文を確認する。</p>	<p>○ ○ ○</p>	
<p>次年度への指針</p>		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組みが意欲的で、栄養や食事の学習に興味をもっている生徒が多い。 話し合い活動もリーダーを中心に活発に行えている。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への関心が高く非常に意欲的であるが、集中力が続かない生徒も中にはいる。 基礎基本の定着に差異がみられる。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣生活分野では、小学校での既習事項が定着していない生徒が多い。また、「よりよいものを作る」という意識が希薄で作品の完成度に差がみられる。 家庭分野への関心が薄い。興味をもつ生徒が少ないように感じる。 	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> その日の実生活に還元できる学習を行う。 調理実習においては、調理の楽しさを味わえるように、工夫して指導を行う。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間、前回の内容を復習する時間を確保する。 話し合い活動を充実させ、課題を解決する力を付ける。 集中力を持続させるために、メリハリをつける。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 分野に関わらず、興味関心を引き出すために生徒の身近な話題を導入部で取り入れる。 技能の差がなるべく出ないように、机間指導を重点的に行い、作る喜びや達成感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で習ったことを実生活で生かせるように、長期休業を利用して家庭における実践課題を出す。 その時間にやった学習内容は振り返りの時間を設けて、復習する。何度も繰り返し行う。 実習時、技能の差に応じた指導を行うために、個別指導に時間をさき、1人1人の技術力を高める。 発問の仕方を工夫したり、発声に抑揚をつけたりしてリズム感のある授業を立てる。 実習を行う際は計画的に進むよう、予定を組む。 教材開発に力を入れ、生徒の実態に合わせた身近なものを用意する。
成果を見取るための方法	児童・生徒の変容(3月上旬現在)	教員の取組状況
<ul style="list-style-type: none"> 定期的に研究授業を実施する。 定期試験の実施と振り返り学習。(年3回) 学期ごとに提出物や作業状況を確認する。 毎回の授業内での観察をする。 		
<p>次年度への指針</p>		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1年：比較的前向きに取り組む生徒が多いが、基礎的な運動の積み上げは低い。主体的に動き、教え合う活動に至っていない。</p> <p>2年：どの種目にも、意欲的に取り組む生徒が多い。互いに声かけは行っているが、課題に対して工夫することが少ない。</p> <p>3年：体育委員を中心に、どの生徒も積極的に取り組み、声かけをよく行っている。より具体的に応用した動きはまだ少ない。</p>	<p>1年：全体指導とグループ活動で、実技の基礎の徹底を図る。また、個々の目標を明確にさせる。</p> <p>2年：基礎基本を大事にし、反復練習を多く取り入れ、個々の目標やチームの目標を明確にさせる。</p> <p>3年：工夫した課題への解決方法を視覚的に理解させ、確認する。</p>	<p>1～3年：学習カードやグループ活動（教え合い学習）を多く取り入れ、課題に対してより意欲的に取り組めるようにする。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>毎時間の授業での出席や学習カードやプリントでの感想や反省をもとに確認。また、毎学期の定期考査、提出物、取り組み状況の確認で見取る。</p>		
次年度への指針		

児童・生徒の現状（7月末現在）	授業改善の視点	具体的な授業改善策
<p>1年生 全体的に落ち着いて授業を受けている。発表やペアワークも積極的に活動している。家庭学習がまだ定着していない。単語テスト、単元テストに対する意識が薄い。</p> <p>2年生 授業態度は概ね良好。大半の生徒が授業にしっかり取り組み課題をこなそうと努力をしている。単元ごとのまとめのテストのやり直し（追試）は毎回全員が合格ラインの80%達成まで根気強く頑張ることができている。自発的なアウトプットが訓練不足でまだできない。</p> <p>3年生 意欲的に取り組み生徒が多いが、基礎の定着ができていない生徒もいる。</p>	<p>1年生 家庭学習に進んで取り組める課題の工夫をする。単語テスト、単語テストの呼びかけを工夫する。</p> <p>2年生 授業では、リスニングやQAを繰り返し行うことで既習事項の復讐と運用練習をする。アクティブラーニングが成立するようにグループワーク・ペアワークを取り入れ、タスクをこなすことで4技能が伸びるような授業を計画する。 また、話したり、書いたりすることで自己表現が十分できるようになるために語彙力・表現力を高める授業展開にしていく。</p> <p>3年生 わかる→楽しい→もっと頑張りたいというサイクルを作り、自信がもてるよう、ペアで協力もさせながら、課題に取り組ませる。</p>	<p>1年生 家庭学習で復習できるように、毎時間必ず宿題を出す。単語テスト、単元テストの呼びかけを事前に数回行い、意識するように呼びかける。</p> <p>2年生 授業では、毎回リスニングと文法ワークを行い理解力を向上させる。 ・単元ごとにまとめのテストを実施して生徒の理解度に応じて放課後の補習授業をする。 ・口頭での説明では不十分な生徒が多いと思われるので文法参考書を単元ごとにレポートにまとめて提出することで、視覚から知識を得る機会を作る。 ・語順・作文に特化した授業を行い、言語を分析したり普遍性に気付いて自己表現に役立てられよう授業を行う。</p> <p>3年生 朝学習の時間を活用し単語練習をする時間を確保する。音読指導を丁寧に行い、全員が暗唱できるようにする。毎日一人と会話をさせ、自信をもって自己表現できるようにする。</p>
成果を見取るための方法	児童・生徒の実態(3月上旬現在)	教員の取組状況
<p>1年生 宿題チェックシートを作り、毎時間、宿題を積み上げていることを視覚的にわかるようにする。 学期ごとにスベリングコンテスト、ユニットごとに単元テスト、単語テストを実施し、定着を図る。</p> <p>2年生 ・9月に語彙力・作文力のテストを行い、1学期の成果をみる。 ・生徒に「チェック表」という名の自己管理表を持たせ、教科書の宿題・ワークシート提出・音読合格・スピーチなど自主学習の進捗状況が本人にも教員にもわかるようにする。</p> <p>3年生 朝学習の時間にスベリングテストを行う。ペアで協力する音読テストや自己表現力を見るスピーチコンテストを行う。スタンプカードで授業、宿題の取り組みを認める。</p>		
<p>次年度への指針</p>		